

## 第5回プリオン専門調査会の概要

日時 平成16年2月20日(金) 17:30~19:30

場所 食品安全委員会大会議室

議事 国際専門家による米国のBSEに関する調査報告書について

調査団長を務めたキム博士(前スイス連邦獣医局長)から国際専門家による米国のBSEに関する調査報告書の概要について説明の後、質疑応答が行われ、以下の見解が示された。

1. 北米全体にBSEが定着しているとの認識の下、BSE対策を強化すべき。
2. BSEリスクが低いことが証明されるまでは、特定危険部位の除去を12ヶ月齢以上とすべきであるが、実行可能性から30ヶ月齢以上とすることを認めるものであり、BSEの汚染状況を把握するためのサーベイランスの強化を優先すべき。
3. サーベイランスについては、30ヶ月齢以上の全ての死亡牛等のリスク牛を検査すべきであり、そのためには、迅速検査法の導入、検査施設の強化、獣医師や畜産農家等に対する教育が必要。
4. BSEのリスクを低下させるためには、特定危険部位を食品や飼料等から完全に排除することが最も重要。一定月齢以上の全頭検査はBSE対策として意味があるが、要するコストに対して得られるものは少ないと考える。
5. BSEのリスクについては、米国に限らず、現在の不十分な科学的知見から不確実であり、限られた資源を有効利用するためにも国民等へのリスクコミュニケーションを実施することが重要。